

寒冷地形談話会通信

1990年度第3号 1990年11月15日発行

事務局連絡先：〒158 東京都世田谷区深沢2-1-1
東京都立大学理学部地理学教室内
荻谷愛彦・平川一臣 TEL 03-717-0111(3691)

1. サマーマースクール無事終了する

今年度の「夏の学校」は8月9日～12日、上高地～湊沢周辺で行なわれました。台風のため予定の変更が生じたりしましたが、事故もなく無事終了することができました。案内をお引き受けくださった岩田修二、山本信雄、岩船昌起の各氏には、この場を借りてお礼申しあげます。また、小梨平では三重大関係者の御協力を仰ぐことができました。あわせてお礼申しあげます。

- 8/9 小梨平→岳沢往復（距高山帯植生、氷食地形、土石流）→明神橋（砂防工事と最近の河床変化）→白沢往復（崩壊と土石流）→明神→小梨平
☆夜はゼミナール開催
- 8/10 [台風11号の接近で停滞] ☆午後はゼミナール開催
- 8/11 小梨平→徳沢→横尾→岩小舎（堆石と氷河前進期の諸問題）→本谷橋（雪崩植生、土石流）→湊沢
☆夜は「上高地音楽祭」（スイスホルンやアンデスの音楽を鑑賞）
- 8/12 湊沢→北尾根VI峰崖錘（崖錘の形成期、風化皮膜、地図ゴケ）→VI峰往復（地形観察）→湊沢にて解散

参加者：岩田修二、岩船昌起、小泉武栄、金子由紀、高橋伸幸、清水長正、山本信之、山本信雄、長谷川裕彦、増沢直、佐野哲、酒井啓、水野一晴、金泰鎬、小川真由美、馬場昭子、高岡貞夫、三浦英樹、荻谷愛彦（20名）

2. 地理学会シンポジウム：「極地と高山の地形～世界の周氷河環境の中での日本の位置づけ～」開催される

10月1日、上越教育大で日本地理学会90年度秋季学術大会が開催され、上記シンポジウムが開かれました。オーガナイザーは岩田修二（三重大）、森脇喜一（極地研）の両氏。現在の周氷河プロセスと周氷河環境”、”周氷河斜面をめぐる諸問題”と題されるセッションが行われ活発な討論が交わされました。なお、発表者と発表内容は地理予 38、2～29p.を参照してください。また、その成果などは来年の地理評に掲載される予定です。

これに先立つ9月28～29日、三国山地・平標山周辺で学会オブション巡検が開催されました。化石周氷河斜面や山麓の谷埋堆積物とテフラ、多雪山地の植生、埋没泥炭などを観察する機会が持たれました。案内は鈴木郁夫（新潟大）、小林詢（信州大）、小泉武栄（学芸大）、高田将志（東京大）の各氏。参加者（32名）の専門分野も多岐にわたり（火山、砂防、植生、土壌など）、それぞれの視点から意見が出されました。

3. 10月例会の報告

10月27日、明治大学で10月例会が開催されました。30名の参加があり盛会となりました。発表者、演旨は次の通りです。

▽山本信雄：「上高地の開発と保護の歴史」

上高地における開発と自然保護の歴史を、時代順に整理した。享保年間に相当量の伐採が行われて以来、宗教登山、温泉開発、電源開発に関連した開発が行われてきた。また、ウェストンによる近代登山の幕開け以降、鉄道・道路の開通、宿泊施設の設置は登山者・観光客の増加を招くきっかけとなった。”マイカ



一規制”(1975)がひかれて以来、来訪者のマナーが向上したように見えるが、最近では観光パターンが滞在型から日帰り型に変化していることもあり、単なる規制だけでは保護をコントロールできなくなっている。入山料の徴収や公共施設の設置、関係省庁(建設省 vs. 環境庁)の対立など、今後解決すべき問題も多い。

▽岩田修二(三重大・人):「上高地における土砂災害と環境保全」

上高地はよく知られた場所であるが、地形学的研究はそれほど行われていない(例えば、上高地の広い谷の成因はよくわかっていない)。今後は、若手を中心に上高地で仕事をするのが良いのではないかと。そのためにはどうしたら良いかetc. — そのきっかけを提供することが目的の一つである。上高地は、氷期に氷河・周氷河作用を受けた大起伏山地に囲まれるいっぽう、支谷は後氷期の押し出しを受けてきたという特徴がある。最近では登山客の増加に伴う環境悪化、砂防や河川改修による景観変化が訴えられているが、土石流などによる土砂災害・地形変化も無視できない。建設省は梓川の人工河川化や支谷の土砂流出防止工事を提唱しているが、自然保護(ケショウヤナギ、イワナ等)の立場から環境庁は反対を唱えている。中央省庁の対立の他に、地元自治体や観光業者の思惑も絡み、上高地の環境保全は単純に解決できない。こうしたなか、地形学を志す者は何をすべきか。一例としてハザードマップの作成などが考えられるが、自然地理の枠にとらわれず、広い視野で研究することもまた重要である。

4. 今後の予定

11月例会は都合によりお休みします。

12月には忘年会を兼ねた例会を行います(極地研、12/15 or 22の予定)のでご期待ください。詳細は近日中にお知らせいたします。なお、1991年用「寒冷地形談話会カレンダー」はその時頒布する予定です(¥1,000. 限定品)。

